

支えられていま ——八沢児童クラブの誕生

加茂隆子

福島県南相馬市 八沢児童クラブ 指導員

臨時児童クラブの開設

八沢児童クラブ（福島県南相馬市）は、東日本大震災の後、臨時に開設した施設としてスタートしました。震災に遭い、原発事故によって市が警戒区域・緊急時避難準備区域・無指定地域の三つに分断され、避難を余儀なくされました。一か月後、市内の小学校が集約されての学校再開にあわせて、八沢臨時児童クラブを含む三つの臨時児童クラブが開設されたのです。

八沢臨時児童クラブは、八沢小学校を含め、集約された六つの小学校の子どもたちが利用することになり、二〇一一年五月、小学校体育館のミーティングルーム（約八畳ほどのスペース）をお借りして開設しました。最低限必要な物（遊具など）を持ち寄り、段ボールをロッカー代わりにしての生活です。仮設住宅から通ってくる子、

市外から通学している子、友達とのふれあいを求めて入会した子など、各家庭の事情があり、登録児童が三〇名という時期もありました。

普段はとても明るい子どもたちですが、震災の体験からくる不安、外遊びもできず制限された生活、そして狭い空間からくるストレスなどを感じていたと思います。指導員には、安全を確保しながら子どもたちが楽しく活動できる工夫をし、ストレスを溜めないような言葉がけと雰囲気づくり、そしてつらい体験をした子どもたちの心に寄りそい受けとめることが求められました。半年後、各小学校が再開され、三学期には八沢小学校の子どもたちだけが利用することになりました。

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンとの出会い ——八沢児童クラブ新設

そんな環境のなか、一なにかこまっ

プ舗装の敷地に「下駄箱には支援でいただいた防災頭巾の収納棚を設置すること」など、現場の声と子どもたちの生活スタイルを考慮し、安全に過ごせるような工夫が盛り込まれた施設がつくられました。通学路の途中にあるため、子どもたちは少しずつ完成に近づくと児童クラブを心待ちにしていたようです。

そして二〇一四年九月三日、建設に関わってくださったたくさんの方々に見守られ、「八沢児童クラブ開所式」が行われました。

新しい環境に 可能性が広がって

新しい児童クラブへ移動し、およそ五か月がたちました。子どもたちは元気に登館しています。木の香りを感じながら広くなった部屋で寝ころんだり、歌を口ずさみながら遊んだり、日当たりのいいデッキで足を伸ばして本

を読んだり、外で思いきり縄跳びをしたり……。その表情は、少しずつおだやかになってきたように感じます。震災から四年、子どもたちをとりまく環境はめまぐるしく変わりましたが、SCJをはじめ、たくさんの方々を支えられておちついた生活をおくることのできることに感謝の気持ちでいっぱいです。

環境が整ったいま、子どもたちが主体となったさまざまな活動に挑戦できる可能性が広がりました。そのためには、保護者や学校の協力と近隣の方々との交流を深め、地域に根ざした施設にすること、そして居心地のいい安心して過ごせる居場所をつくり、継続することが大切だと考えます。児童クラブは、子どもたちの成長過程のひとつの通過点。その児童クラブの毎日を充実したよりよいものになりたいと私は思います。

ていることはありませんか」と訪ねてくださったのが公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン（以下、SCJ）の方々でした。SCJの方々には、私たちの現状を見て「もっと広い部屋があればいいですね」と感じてくださったようです。その後、何度も訪問を重ねて、サントリーホールディングスが建設費を全額出資してくださることになり、市との協議を経て、八沢児童クラブが新設されることになりました。震災から三年目のことでした。それからおよそ九か月間、SCJの方々、設計会社の方々、建設会社の方々、市職員、指導員との話し合いを重ねました。「木のぬくもりが感じられ、どこにいても子どもたちが見渡せる空間設定」「子どもたちの荷物にあわせた大きなロッカーを設けることで」「掲示物の画びょうで足を傷めないように、壁はマグネット素材にするので」「足にやさしく、活動しやすいゴムテッ